



49. ナガヅカ *Stichaeus grigorgewi* Herzenstein 図版19

英名 long shanny

露名 стихей Григорьева

地方名(北海道) ワラヅカ、ガンジ、ガンズ、マガンジ、ホンワラズカ

漢字 ながづか 長柄、長束

【形態】 体は細長く、ウナギ形で、細かい円鱗^{えんりん}に覆われる。体の前方は円筒形であるが、後方は側扁^{そくへん}*する。頭部はうろこがなく、縦扁^{じゅうへん}*する。口は大きく、上あごの後端は眼の後縁より後方に位置する。下あごは上あごより突出する。背びれには鋭い棘条^{きやく}*があり、軟条^{なんじょう}*はない。側線^{せせん}*は1本。体の背側^{そく}*は黄褐色または黒褐色で、虫食い状の暗色斑^{はん}で覆われる。背びれと尻びれ^{しりびれ}には暗色帯が縦走^{じゆうそう}*する。全長*80cmになる。

近縁種のタウエガジ *Stichaeus nozawai* は北海道でネコガンジ、ドロボウ、バケワラヅカ、シキポロなどと呼ばれ、ナガヅカによく似るが、口が小さく上あごの後端が眼の後縁より前方に位置すること、背びれの棘条^{きやく}*が52本以下であること、背びれに斜めに走る暗色帯が多数あることなどで区別できる。シキポロはアイヌ語で眼が大きいかを意味する。

【生態】 朝鮮半島周辺および山陰地方以北の日本海、北太平洋、オホーツク海、サハリン周辺に分布する。北海道周辺では太平洋と日本海に多い。水深

300m以浅の砂泥域に生息し、えりも岬以西太平洋では水深150m付近に多い。

雌は体長*40cm、体重600g前後になると、性成熟*すると推測されている。産卵期は噴火湾で4～5月、根室湾では5～6月で、水深2～10mの岩礁域がんしょうのくぼ地や石の陰ちようかんたいにソフトボール大の卵塊*を産み付ける。ときには水深50cmほどの潮間帯*でも産卵する。雌は卵塊に体を巻き付けて卵を守る。産卵後は水深200～300mの深みへ索餌*のために移動し、秋から冬にも岸に寄る。

卵は球形の付着沈性卵*で、直径1.22～1.29mm。受精後、吸水し5時間で直径約1.6mmになる。卵は発生の進行に伴い、隣の卵と接する部分が互いにこぶ状に突出し、乳黄色から黄褐色に変わる。ふ化は水温5.2～6.8°Cで受精後33日目から始まり、その後約1週間続く。ふ化仔魚*は全長7.7～8.4mmで、9日後には8.1～8.5mmに成長する。その後の年齢と成長の関係は不明。

カレイ類、タラ類、ゲンゲ類、カジカ類などの魚類のほか、エビ類、イカ類なども餌とする。